



日本WHO協会 講演資料

母子健康手帳における
アナログとデジタルの共存
～IT企業が大切にすべきこと

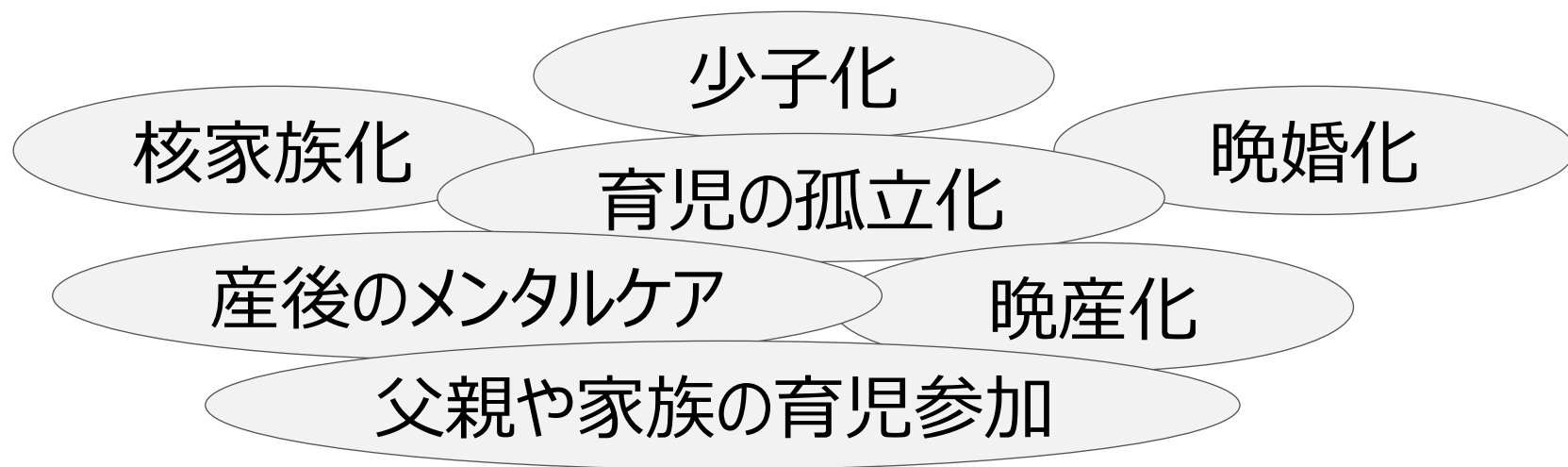
2025年 12月12日

代表取締役社長
阪田 敦視

母子健康手帳 親子の健康記録と子育ての羅針盤



子育てニーズの多様化・複雑化

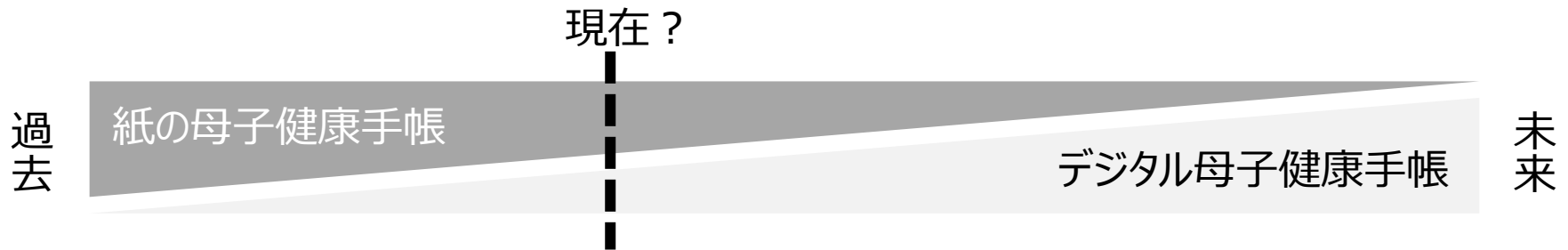


母子健康手帳のデジタル化が加速

情報化社会、多様化社会における 母子健康手帳のデジタル化



利便性、効率性、個別性を飛躍的に高め、
ひとりひとりに寄り添う双方向な子育て支援を実現



母子健康手帳をキーアイテムとした
子育て支援のデジタル化が加速

記録されている情報は
客観的な情報だけではない
(体重、身長、予防接種日等)

子育てに関わる人々の愛情や個人的な思い出
＝質的な価値を保存



必ずしも数値化、定量化できるものではなく
現在のデジタル技術で記録することは困難

単に紙をアプリに置き換えることではない

いつでもどこでも手軽に非物理的に残し、
誰とでも共有できる情報や思い出

デジタル記録

+

手間をかけ、愛着をもって作り上げた物理的なモノに
結び付けられた情報や思い出

アナログ記録

子育ての安心感を最大化するとともに
育児の「記録」と「思い出」があふれる手帳をつくる

時間の捉え方の違い

紙の手帳は時を体感的・俯瞰的に捉え、
電子化された手帳は時間を効率的・瞬間的に捉える

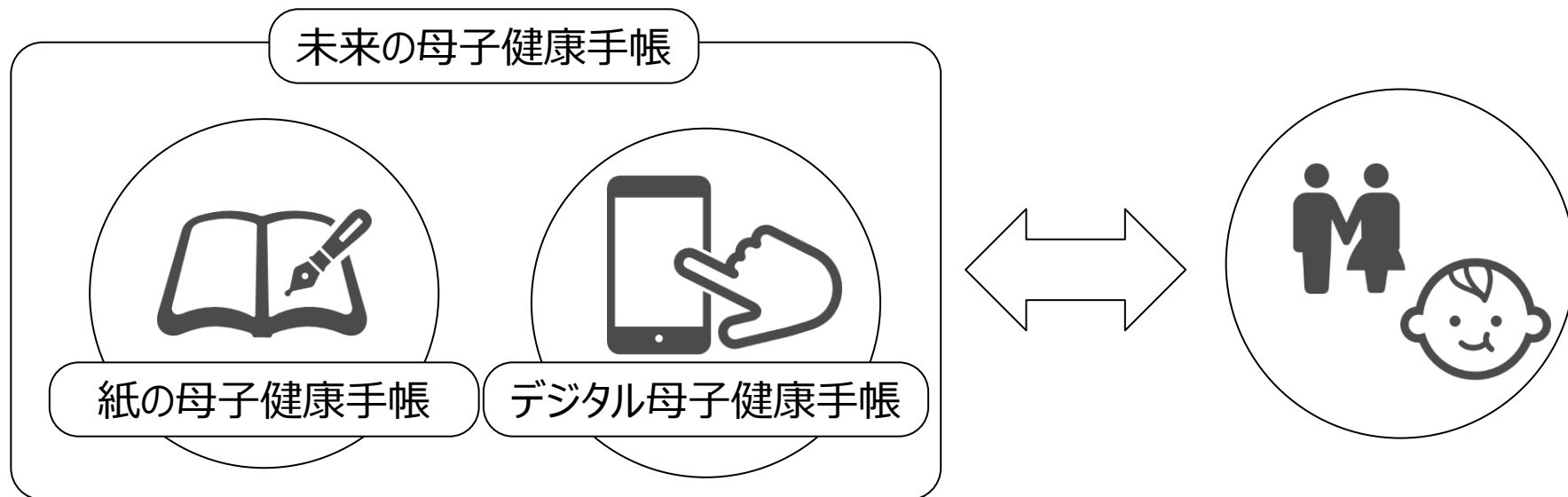
過去 現在 未来



過去との対話

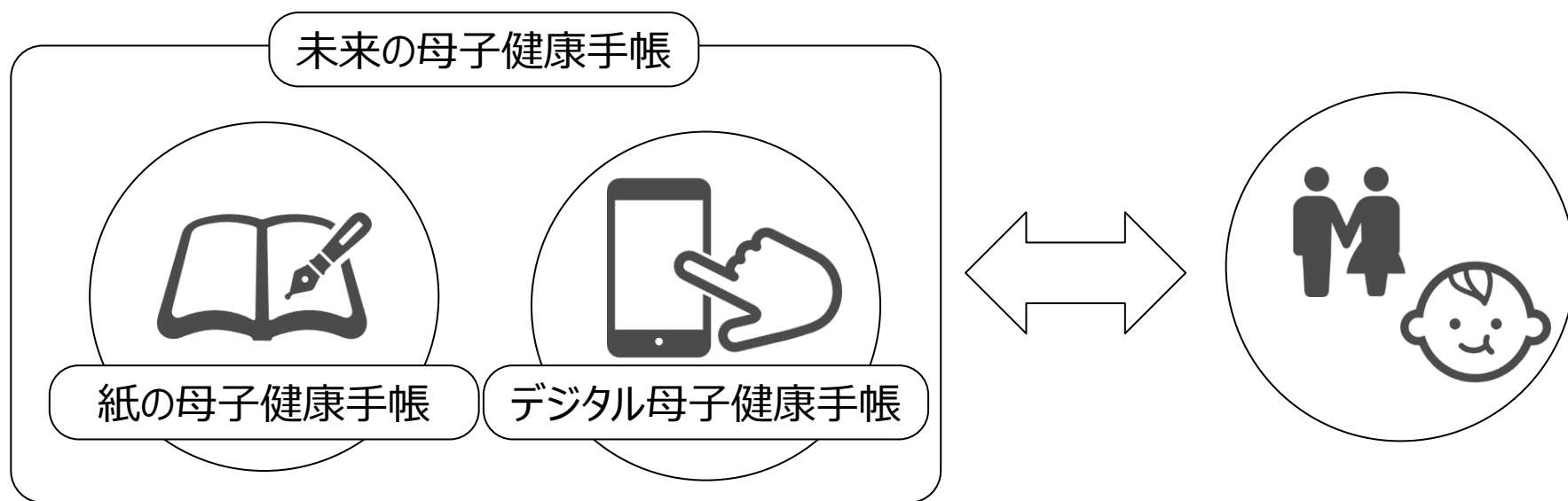
現在や未来ですべきこととの対話

紙でもあり、デジタルでもある母子健康手帳



データ・情報の双方向な連携・同期
ハイブリッドな記録
デジタル記録による思い出の補完

紙の手帳が失われても、電力が使えなくても
子育てへの影響を最小限に抑える
情報と思い出の保管庫



アナログとデジタルの良いところ取り

子育て支援の共創を推進するインターフェース

母子健康手帳のデジタル化
子育て支援サービスのデジタル化
PHR（Personal Health Record）の整備
情報連携システム、データ基盤の標準化
自治体の母子保健業務のデジタル化 等

子育て支援のしくみを
デジタル化によって変える = DX



親子が身体的、精神的、社会的に満たされ、
未来に希望を持てる社会

母子健康手帳の質的な価値が継承された
アナログとデジタルが共存する子育て支援社会

本日はありがとうございました

株式会社プロアシスト
代表取締役社長 阪田 敦視
sakata@proassist.co.jp